

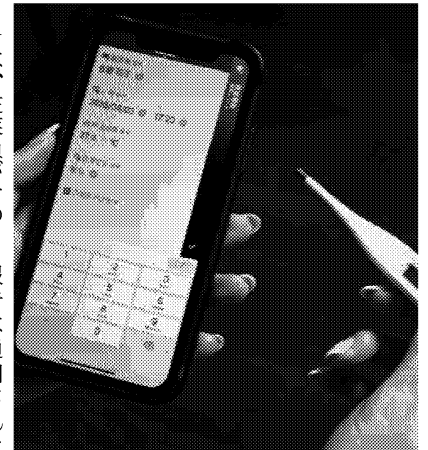
社員の体調把握 アプリで簡単に

アステリアが無償提供

ソフトウェア開発・販売のアステリアは、従業員の体温や自覚症状についての報告を自動で管理するアプリサービスの無償提供を8日に始める。新型コロナウイルスへの対応で社員に検温を求める企業が増える中、メールや紙による膨大な報告を持て余す例も多い。労務管理を支援するアプリの提供を入り口に、自社のアプリ作成ツールの販路開拓につなげる。

政府の新型コロナウイルス対策専門家会、チェーンの鳥貴族やSGホールディングス傘下の感染対策専門家会、佐川急便など、従業員が安んじて「風邪の症状、出勤する際に体温など、37.5℃以上の発熱が健康状態を確認させる企業も増えている。アステリアが提供を始める「検温レポートアプリ」は、感染の拡大を防ぐため、居酒屋

体温など自動で通知 新型コロナ疑い迅速対応



従業員の体温や症状を一括して管理できる

「は、従業員がその日報告は通知されなかった体温や「倦怠（けんたい）感がある」などの自覚症状をスマートフォンに入力すると、管理担当者

者のアプリ上に全員の内容がリストとして表示される。日々の結果は従業員ごとにまとめることができ、後から見返すのも容易だ。

事前に「37.5℃以上」などと基準値を設定しておけば、報告された体温が基準を超えていた場合、管理担当者のスマホ画面にプッシュ通知で表示できる。基準値以下の

を検討する企業や自治体向けにノウハウや課題を説明する無料のオンラインセミナーも開いている。同社の長沼史宏氏は「感染の拡大以降、これまで縁遠かった事業者からも多くの相談を受けらる」と話す。アプリの無償提供を機に自社サービスの認知してもらい、次の商談につなげる。

今回のコロナ禍をきっかけに、働き方改革を支援する自社サービスの無償提供に乗り出す企業が増えつつある。日本マイクrosoftは3月から、業務用ソフト「Office 365」をウェブ上で利用できる

企業向けの「E1」ライセンスを6カ月間無償で提供。ウェブ会議ツールやオンラインストレージなどを利用できるようにした。コロナミドルタジャバは3〜6月まで、オフ

（岩沢明信）